



紙上セミナー

ゆめ しょく ざよう
信心で夢の職業だった「ゲームプログラマー」になれた話

剣 と盾を持って、悪いヤツを倒していく。空を自由に飛び回る。自分の好きなように世界を創つていく——これは、「ウソ」ではありません。ゲームの世界なら、全部、「本當」になるんです！

僕は、そんなゲームを作る、プログラマーという仕事をしています。子どもの頃から大好きだった、主人公になって冒険したり、成長する、世界でも有名なRPG（ロールプレイングゲーム）のシリーズの制作をしています。ゲームって、人生をちょっと豊かにしてくれるものだと思います。ゲームをする「ちょっとした時間」に、最高の体験をしてもらえるよう、驚くような表現や面白いくことを考えて、実際に作っていく。それが僕の仕事です。

まさか自分が、子どもの頃からの夢をかなえることができるなんて思ってもみませんでした。でも、かなえることができました。それは、私の父、母から教えてもらった、この信心があったからです。

初 めての祈りは、「ゲームのソフトを買ってほしい！」（笑い）。この願いは、かないましたが、自分にとって本当に大事な「祈り」に気が付いたのは、中学生の時でした。

いじられキャラだった僕。仲良くしたい友達に暴力を振るわれたり、部活では後輩に技術で抜かれてしまったり、うまくいかなかつたりすることが増えて、とても悩んでいました。

そんな時、かつて母がてくれた信心の話が頭をよぎったんです。

「就職活動の時、必死にお題目をあげて、自分の力の限りに挑戦したのよ。そうしたら、世界でも有名な化粧品会社で働くことができるようになったんだよ」

現実に追い詰められていた僕は、その日から御本尊に向かって、勤行と唱題を始めました。最初はお題目を1分唱えるところから。「悩みを解決したい」「自分を変えたい」という夢をかなえようと、今会社に転職して16年。ゲーム業界は、技術の進歩がとても速いので、常に勉強し続けていますが、僕よりすごい人はたくさんいます。けれど今、プログラ

すると、少しずつ気持ちが前向きになっていきました。そのうちに、クラス代表の委員とか、人前に出る役割に穏

黒川 進一さん



極的に挑戦できるように。高校受験でも、志望校に合格。そこで、創価学会の「祈り」って、自分の中にあった「無理だろう」という壁を突破させてくれるものなんだって、知ったんです。

そ の後、夢だったゲーム業界の仕事を目指して、専門学校へ。信心を自分の「ど真ん中」に置いて、昼も夜もプログラミングに熱中しました。

卒業後は、夢のゲーム業界に入ることができました。本当は2カ月かかる仕事を2週間でやらないといけないなんて、大変な時もあったけれど、この時も、お題目を心の中で唱えながら、頑張りました。「黒川くんのおかげで、会社が救われた！」って、多くの人に喜んでもらえた時は、「努力は絶対に無駄じゃない」と心から実感しました。

「小さい頃から憧っていた、あのゲームを作りたい」という夢をかなえようと、今会社に転職して16年。ゲーム業界は、技術の進歩がとても速いので、常に勉強し続けていますが、僕よりすごい人はたくさんいます。けれど今、プログラ

僕が学会で学んだこと

▼
勤行・唱題で自分自身の壁を突破！
どんな道も必ず最高の道にできる



ゲーミング家庭でエントシヨイ（左から妻・眞琴さん、三男・将広さん、黒川さん、次男・拓貴さん、長男・航汰さん）

ラマーチームの中心者を務めることができます。それは、信心で「心」を磨いてくることが、できたからだと思っています。

でも、一人では絶対に無理でした。学会の人たちとの出会いが、今の僕をつくってくれているからです。

未 来部の合唱団の時、担当者のお兄さんが「ゲームを作っている人でした。後ろの世界的なボーラー

ゲームのヒット作を作った人です。この人のおかげで僕は、「将来、ゲームを作りたい！」と思うようになりました。

高等部の時に所属していた人材育成グループでは、父子・母子家庭など、大変な状況の中でも、明るく前向きな友達が多くいました。正直、「なぜ、あんなに頑張られるのだろう」と、不思議に思っていました。皆に共通していたのは、池田先生の言葉を心の励みとして、信心のチャレンジをしていたこと。必ず希望の未来があると確信していました。それに気が付いた時、「信心って、池田先生って、すごい。今日からは自分も、信心でもっともっと成長していくぞ！」と、決心しました。

実は僕、3歳ぐらいの時に、先生に初めてお会いしていました。その時のことは、ほとんど覚えていませんが、母がいつも先生の優しさ、温かさを語ってくれました。先生がこの時、「大樹のように育つんだよ」「将来、創価大学にいらっしゃい」と言ってくださっていたことも知り、「大樹のように」は自分のモットーに。大学受験では、創価大学を目指していました。けれど、ダメでした。

でも、社会人になって、先生との約束

を果たすために創大の通信教育部に入学して、仕事をしながら勉強も頑張って、卒業できました。それが転職の時に、少し役に立つたり。

人生って本当に何があるか分かりません。けれど、信心の「剣」を持って、池田先生、そして学会の人たちとの伴を大切にしながら進んでいけば、どんな道も必ず、自分にとって「最高の道」として切り開いていくことができるんだなあと

いうのが、僕の本音です。

ゲ ーム大好きな3人の息子たちも、勉強と、そして少し才媛心にも挑戦しています。長男は野球をやっています、試合の前には、「自分分、チームみんなの力が発揮できるように」と、祈っています。「将来は発明家になりたい」と言う彼は、プログラミングを僕が教えることもあります。「彼らのこれからの方は、どんな道なのかな？」と、妻と共にとても楽しんでいます。

「ゲームを作る仕事をしたい」という夢はかなった僕ですが、まだまだ夢があります。それは、「世界を平和にしていくためのゲーム」を作ることです。どんなゲームなのか、自分にもまだ分かりません。けれど、信心を頑張って頑張って、その中で湧き出てきた知恵で作っていこうと決意しています。僕は「まだ、41歳です。これからも夢に向かって、信心に励んでいきます！」（8月8日付）

【プロフィル】くろかわ・しんいち
国内大手ゲーム企業にゲームプログラマーとして勤務。41歳。1982年（昭和57年）入会。東京都町田市在住。総区男子部副書記長。総区創価班委員長。白鳳会（男子部）のデザイングループ第2総東京委員長。

すべてを突破する。
**TOPPA MI
TOPPAN**

印刷の会社だと
思ってない?

ないっすよ。

突破しよう。

今までの考え方。

今までのやり方。

深刻化するフードロスを。

拡大する教育格差を。

安全安心なまちづくりを。

地球規模の環境問題を。

待ったなしの超高齢社会を。

かけがえのない文化財の保全を。

これからのデジタルトランスフォーメーションを。

無数の課題が広がる世界、

そのすべてをフィールドに。

未来のずっと先まで、突き抜けよう。